



あくなき創造で持続可能な社会を

2018年 8月 3日 (金)

サトーホールディングス株式会社

2019年3月期 第1四半期決算説明資料

証券コード : 6287

決算ハイライト

連結で前年同期比増収・大幅増益

自動認識ソリューション事業 ▶ 好調に推移

海外：課題への対応が進み、回復基調が強まる

日本：良好な外部環境と継続的な内部施策が功を奏する

IDP事業 ▶ 研究開発がほぼ計画通りに進む

事業セグメント別売上高及び営業利益

(単位：百万円)

		FY2018 Q1	FY2017 Q1	前年比	除く為替
自動認識 ソリューション事業	売上高	27,992	26,717	104.8%	105.6%
	営業利益	1,777	1,232	144.3%	144.8%
海外	売上高	10,910	10,087	108.2%	110.4%
	営業利益	553	369	149.8%	148.1%
日本	売上高	17,081	16,630	102.7%	102.7%
	営業利益	1,224	862	141.9%	143.4%
IDP事業	売上高	125	82	153.2%	147.3%
	営業利益	▲303	▲319	--	--
連結（消去後）	売上高	28,118	26,799	104.9%	105.7%
	営業利益	1,473	851	173.1%	175.2%

連結業績

(単位：百万円)

	FY2018 Q1	FY2017 Q1	増減	%
売上高	28,118	26,799	+1,318	104.9%
営業利益	1,473	851	+622	173.1%
営業利益率	5.2%	3.2%	+2.1pt	--
経常利益	1,403	721	+681	194.5%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	781	337	+443	231.2%
実効税率 ※1	44.0%	74.6%	▲30.6pt	
EBITDA ※2	2,866	2,261	+605	126.8%

FY18 Q1 為替レート (期中平均) : 109.09円/USD, 130.03円/EUR (FY17 Q1 同為替レート : 111.09円/USD, 122.26円/EUR)

※1 実効税率 : FY17 Q1は、Argox社のれん追加減損などの影響あり

※2 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + のれん償却費

・減価償却 FY18 Q1 : 1,105百万円

・のれん償却 FY18 Q1 : 287百万円 (DataLase社 158百万円 他)

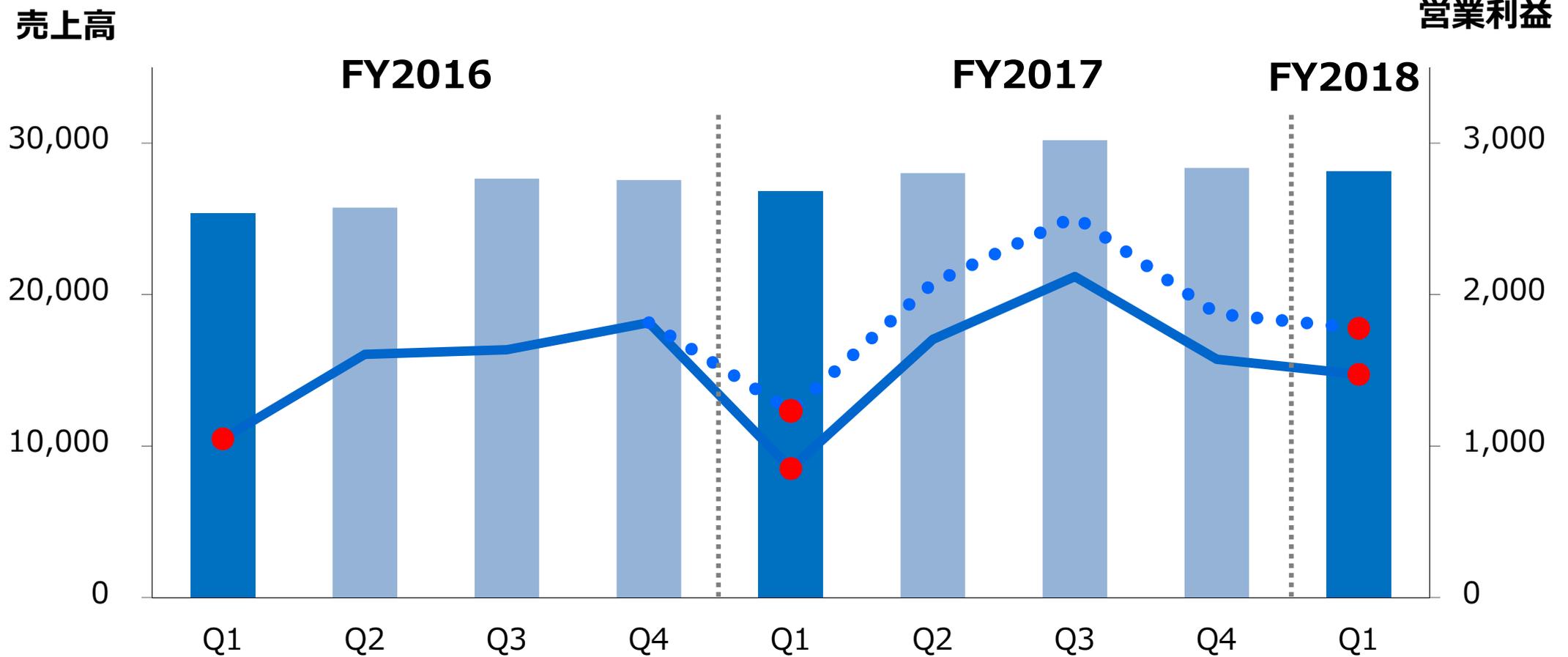
FY17 Q1 : 1,043百万円

FY17 Q1 : 366百万円 (DataLase社 151百万円 他)

四半期別 連結業績推移

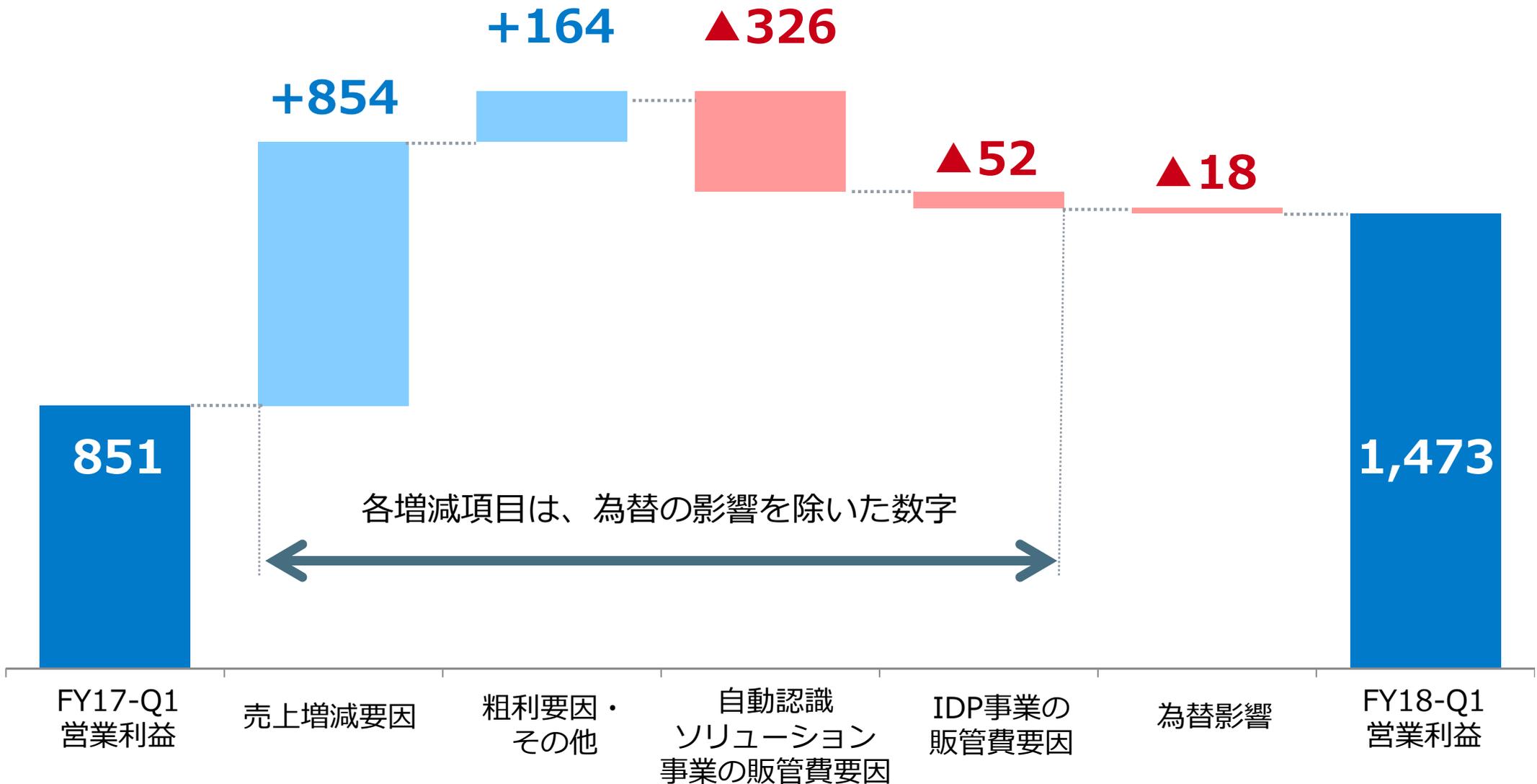
(単位：百万円)

■ 売上高 — 営業利益 ●●● 営業利益（自動認識ソリューション事業。IDP事業除く）



連結 営業利益前年との比較

(単位：百万円)

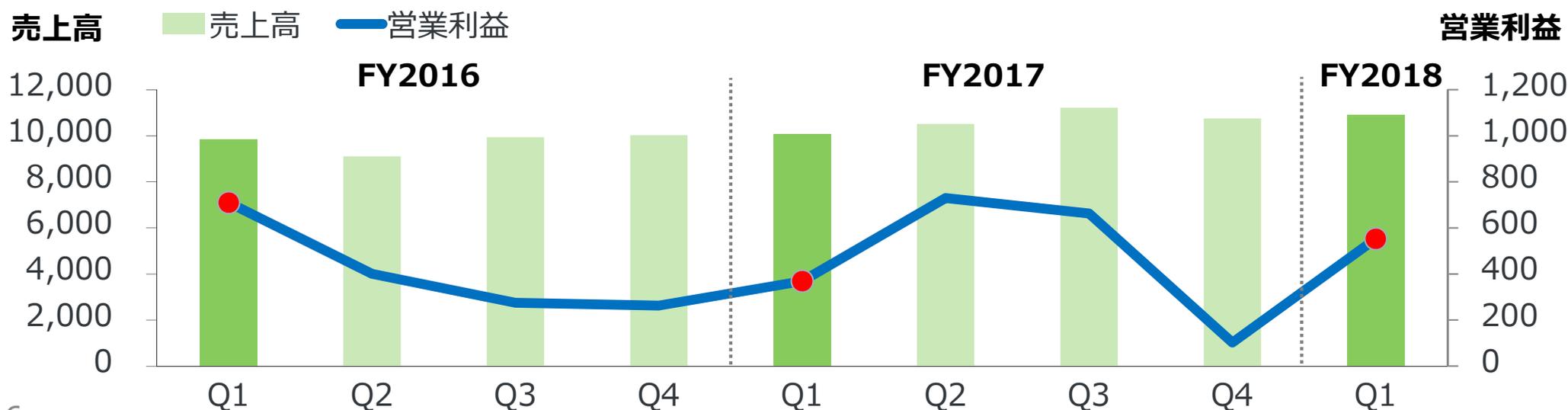


自動認識ソリューション事業（海外）

課題への対応と成長戦略の推進により増収・増益

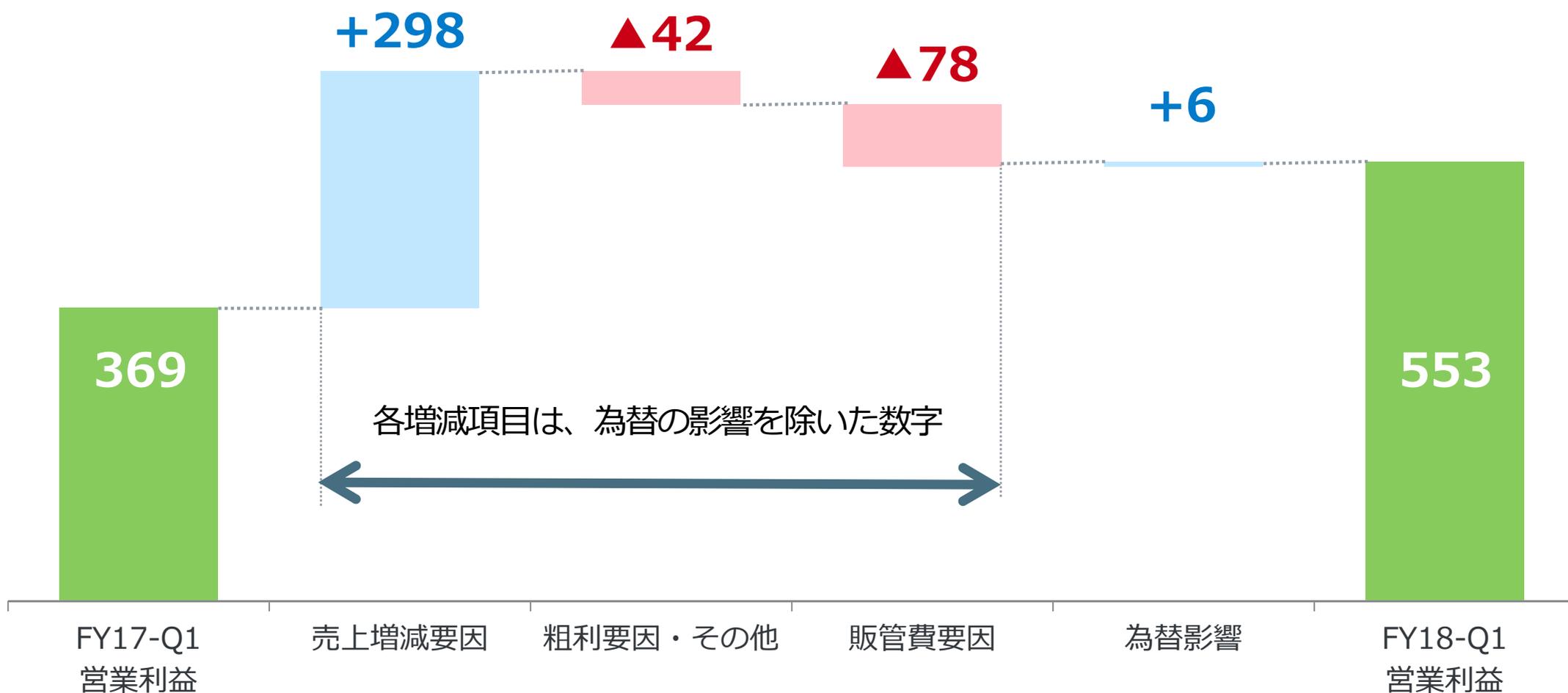
（単位：百万円）

	FY2018 Q1	FY2017 Q1	増減	増減	
				%	除く為替
売上高	10,910	10,087	+823	108.2%	110.4%
粗利額	4,012	3,793	+218	105.8%	--
粗利率（外売）	36.8%	37.6%	▲0.8pt	--	--
営業利益	553	369	+183	149.8%	148.1%
営業利益率	5.1%	3.7%	+1.4pt	--	--



自動認識ソリューション事業（海外） 営業利益 前年との比較

（単位：百万円）



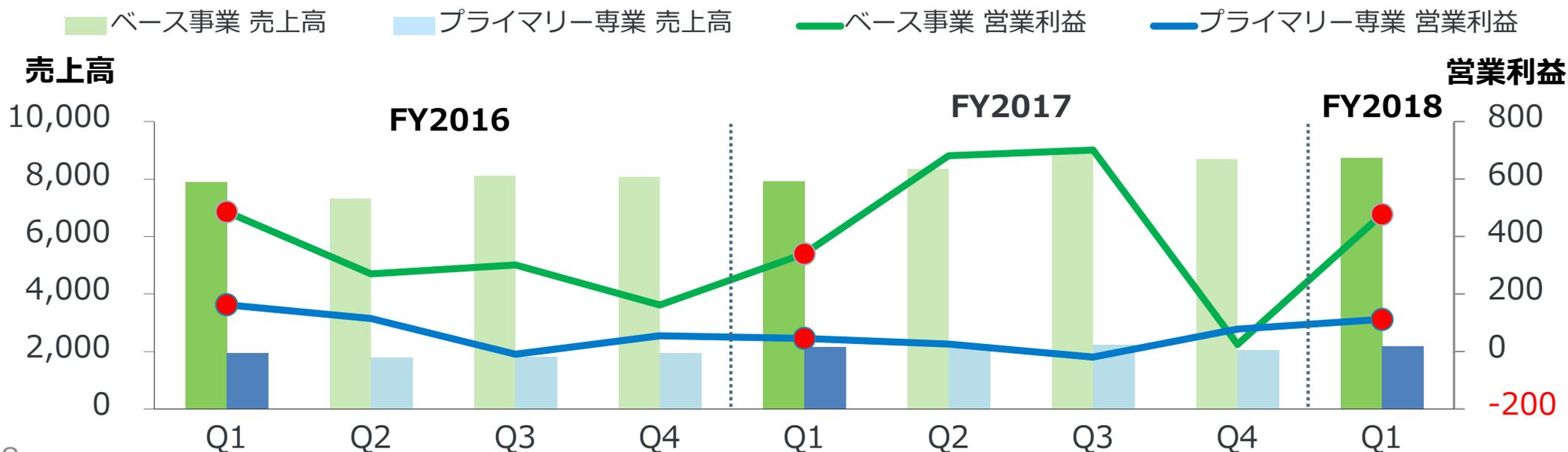
自動認識ソリューション事業（海外－事業別内訳）

ベース事業：欧州、アジア・オセアニアは増収・増益。米州はSGS社の組織再編の影響により増収・減益

プライマリー專業：主にOkil社の為替要因により増収・増益

（単位：百万円）

		FY2018 Q1	FY2017 Q1	増減	増減	
					%	除く為替
ベース事業	売上高	8,730	7,925	+805	110.2%	109.2%
	営業利益	477	340	+136	139.9%	134.9%
プライマリー專業	売上高	2,180	2,161	+18	100.8%	114.7%
	営業利益	112	46	+66	241.7%	265.6%
海外消去	営業利益	▲36	▲18	▲18	--	--



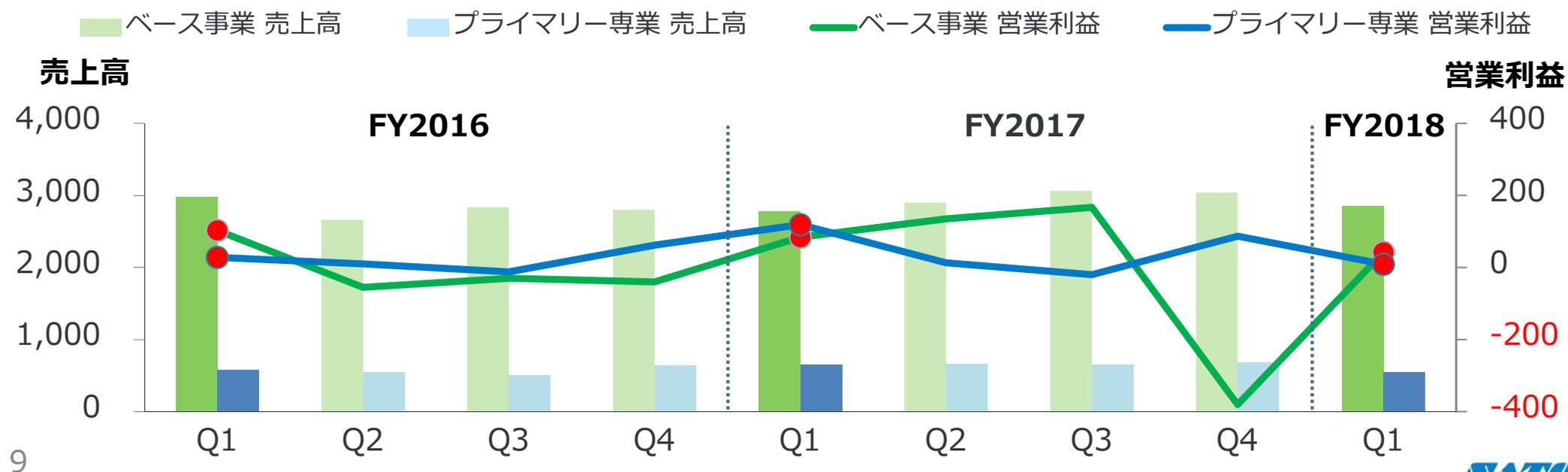
自動認識ソリューション事業（海外－地域別内訳 米州）

ベース事業：SAL社が引き続き好調。一方でSGS社の組織再編の影響により、全体では増収・減益

プライマリー專業：主にマクロ要因や、Prakolar社での前年同期の一過性の高粗利案件の剥落により減収・減益

（単位：百万円）

		FY2018 Q1	FY2017 Q1	増減	増減	
					%	除く為替
ベース事業	売上高	2,854	2,778	+76	102.7%	106.3%
	営業利益	42	84	▲42	50.3%	56.7%
プライマリー專業 ・ Achernar社 ・ Prakolar社	売上高	546	657	▲110	83.1%	103.4%
	営業利益	9	119	▲109	7.9%	7.5%



自動認識ソリューション事業（海外－地域別内訳 欧州）

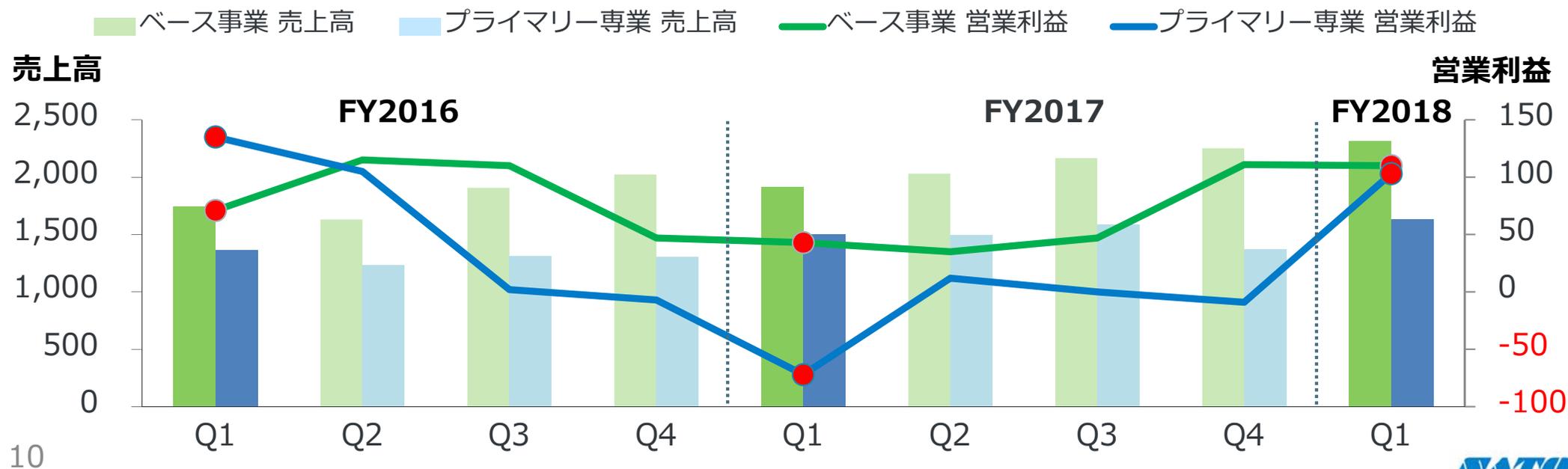
ベース事業：ほぼすべての国で増収・増益となり、回復基調を維持

プライマリー專業：主に為替のポジティブ影響により、Okil社で増収・増益

（単位：百万円）

*サトーホールディングスが60%の株式を保有するロシアの子会社。シュリンクスリーブ、インモールド、軟包装の製造・販売を行う

		FY2018 Q1	FY2017 Q1	増減	増減	
					%	除く為替
ベース事業	売上高	2,315	1,917	+398	120.8%	114.0%
	営業利益	110	43	+66	253.7%	238.9%
プライマリー專業 ・ Okil社 ・ X-Pack社*	売上高	1,633	1,504	+128	108.6%	119.7%
	営業利益	103	▲72	+175	--	--

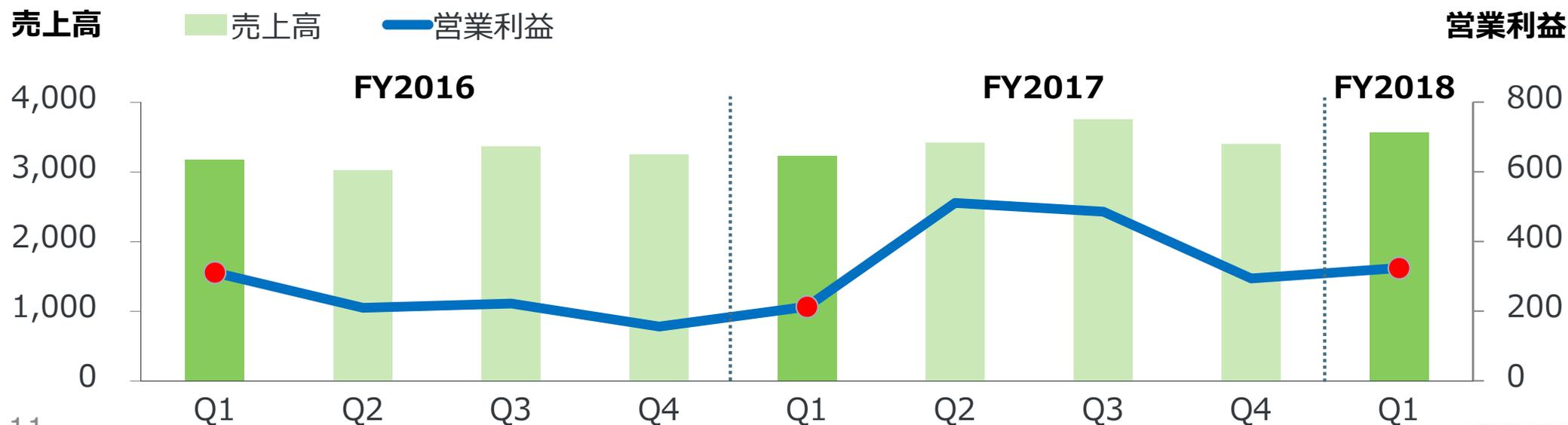


自動認識ソリューション事業（海外－地域別内訳 アジア・オセアニア）

ベース事業：ソリューション提案が浸透し、商品単体販売からの多様化が進む
前年同期に赤字計上した台湾、インドネシア、インドが改善

（単位：百万円）

		FY2018 Q1	FY2017 Q1	増減	増減	
					%	除く為替
ベース事業	売上高	3,560	3,229	+331	110.3%	108.8%
	営業利益	324	213	+111	152.3%	144.6%

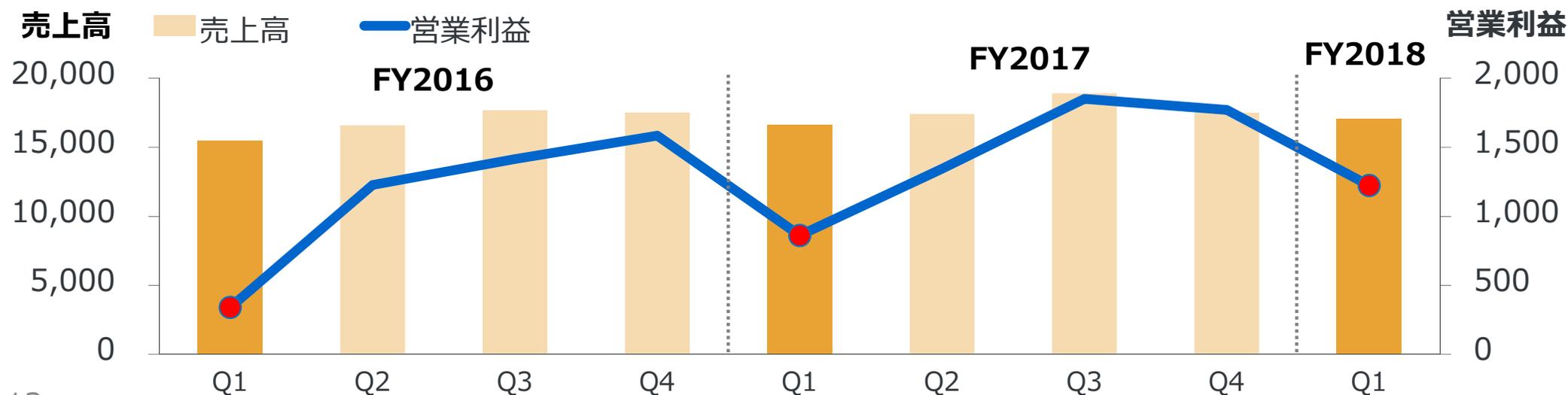


自動認識ソリューション事業（日本）

メカトロ、サプライともに増収。粗利率・営業利益率とも改善。公共を除くすべての市場で増収

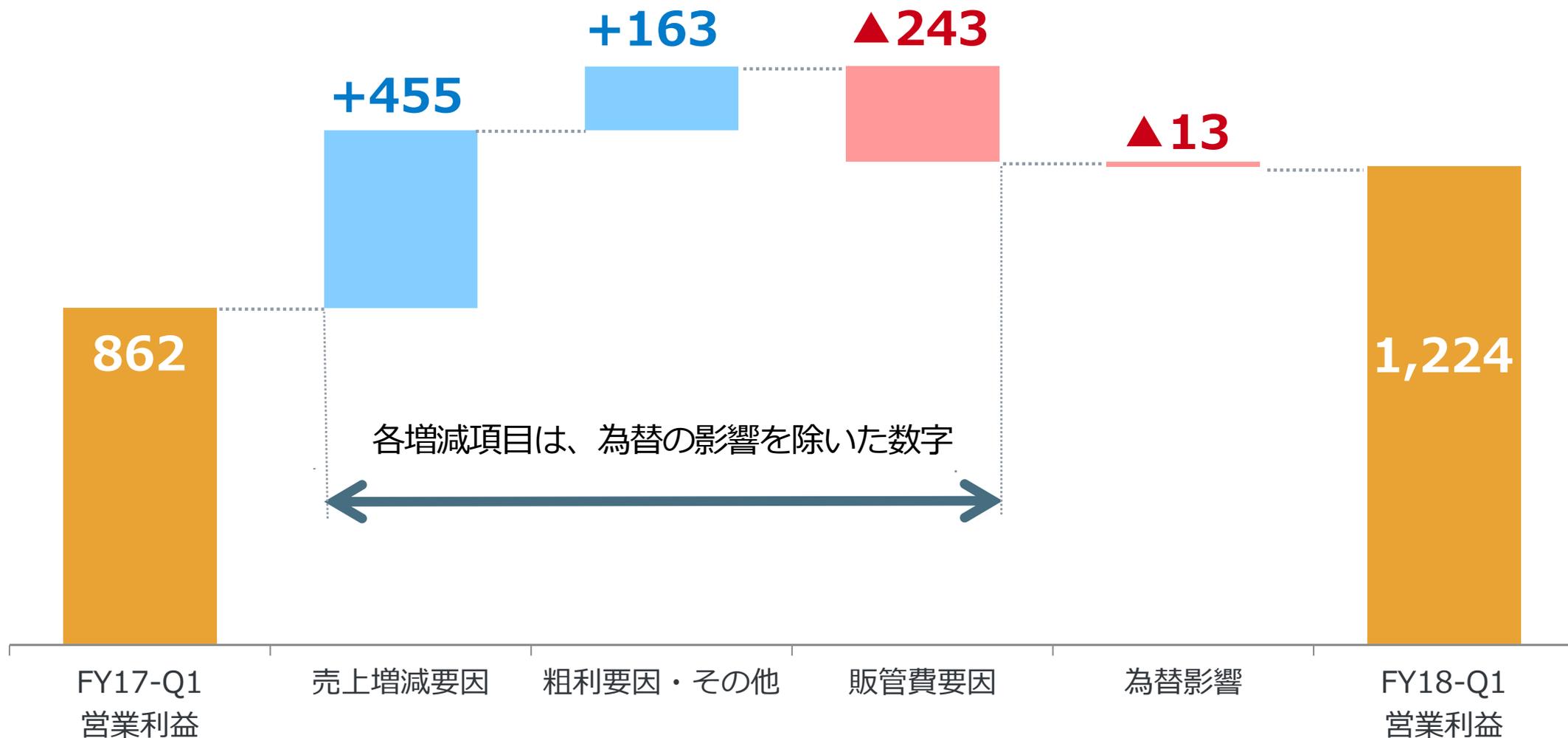
(単位：百万円)

	FY2018 Q1	FY2017 Q1	増減	
				%
メカトロ売上高	6,220	6,026	+193	103.2%
サプライ売上高	10,861	10,604	+257	102.4%
外部売上高 計	17,081	16,630	+450	102.7%
粗利額	8,500	7,895	+604	107.7%
粗利率 (外売)	49.8%	47.5%	+2.3pt	--
営業利益	1,224	862	+361	141.9%
営業利益率	7.2%	5.2%	+2.0pt	--



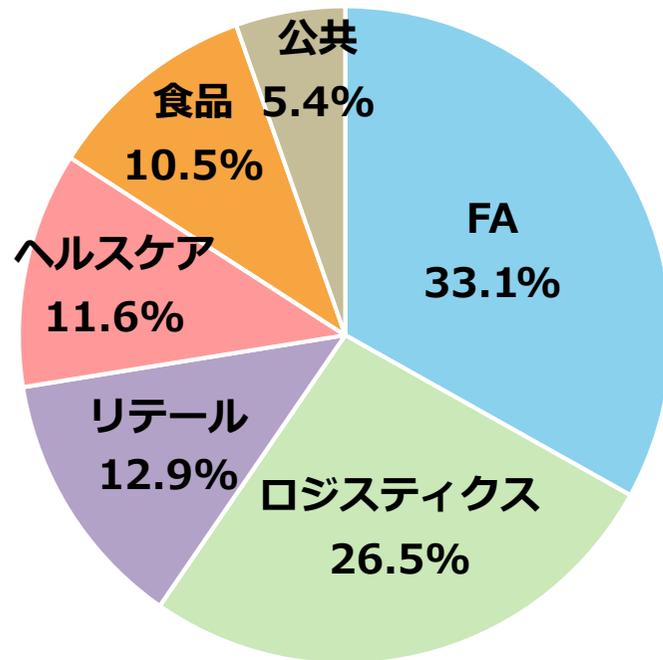
自動認識ソリューション事業（日本） 営業利益前年との比較

(単位：百万円)

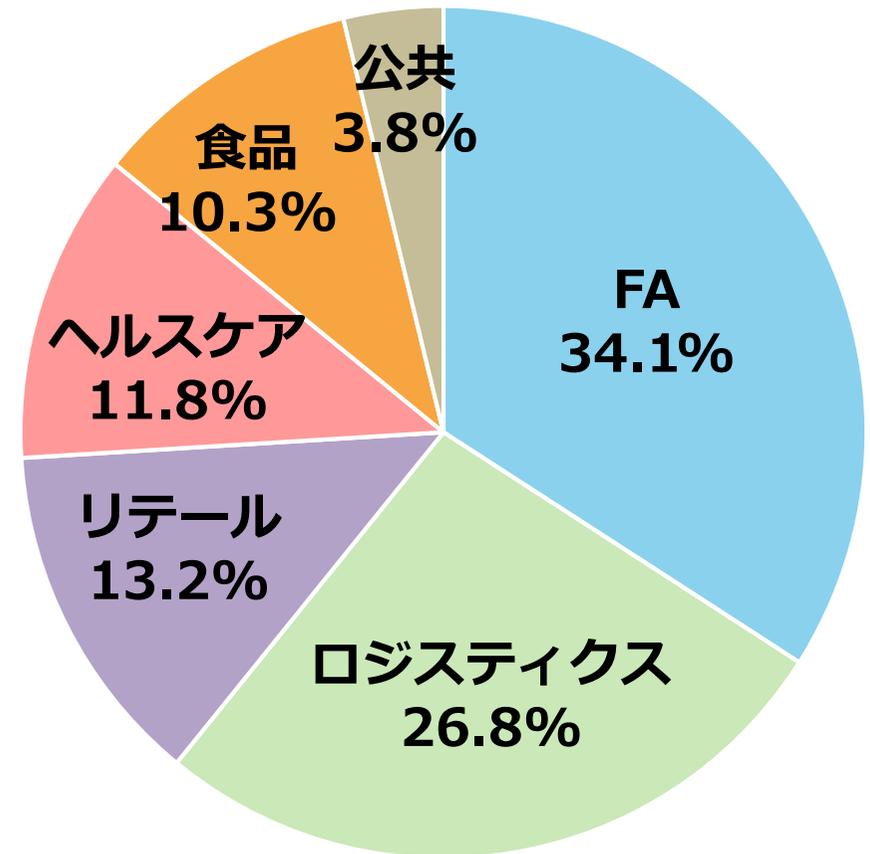


自動認識ソリューション事業（日本） 市場別売上構成（Q1）

FY2017



FY2018



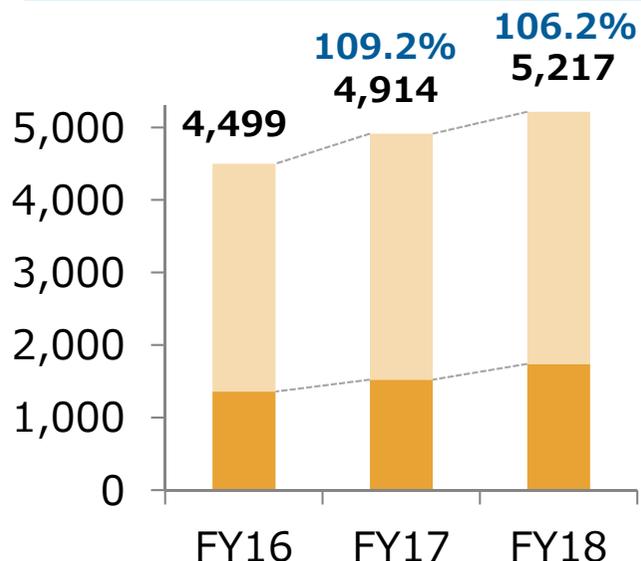
FA : 33.1% ⇒ 34.1% (+1.0pt)
公共 : 5.4% ⇒ 3.8% (▲1.6pt)

自動認識ソリューション事業（日本） 市場別売上高推移（Q1）（1）

（単位：百万円）

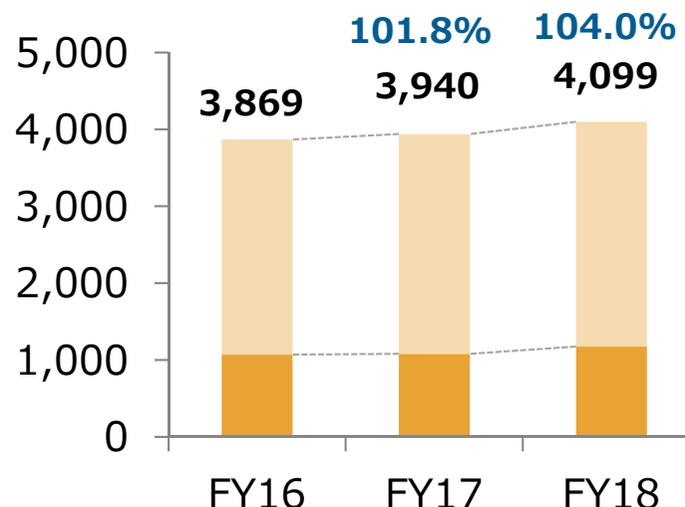
■：メカトロ ■：サプライ ※数字は売上計、%は前年比

FA



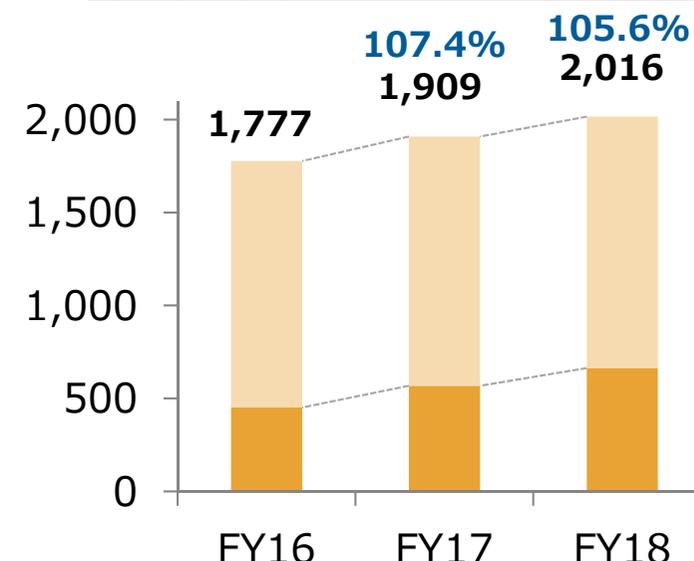
- FA業界における品質問題等で量産品の生産量が伸び悩むなど、サプライ需要には向かい風
- ラベル活用や予防保守など、プリンタ販売にとどまらないソリューション提案が奏功

ロジスティクス



- Eコマース及び冷凍食品市場の拡大や人手不足など、外部環境は良好
- 拡大する社会課題を解決するラベルの自動貼り機などの自動化提案が好調

リテール



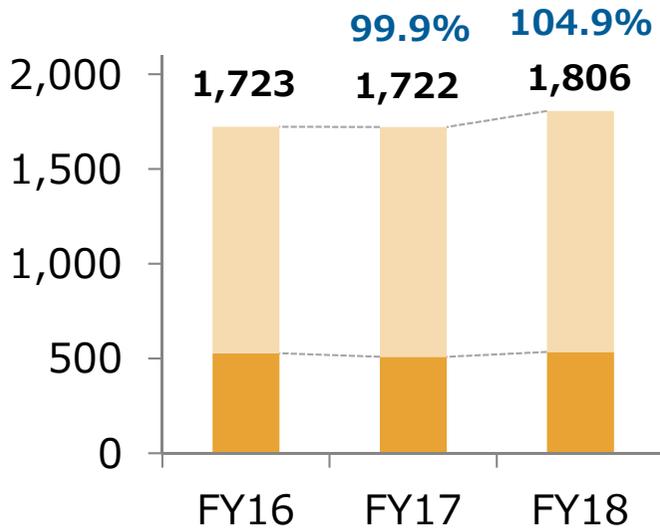
- 実店舗とEコマースの相乗効果発現や中食市場の堅調な推移など、外部環境は良好
- 大口プリンタのリプレイス商談や、ソリューション提案が奏功

自動認識ソリューション事業（日本） 市場別売上高推移（Q1）（2）

（単位：百万円）

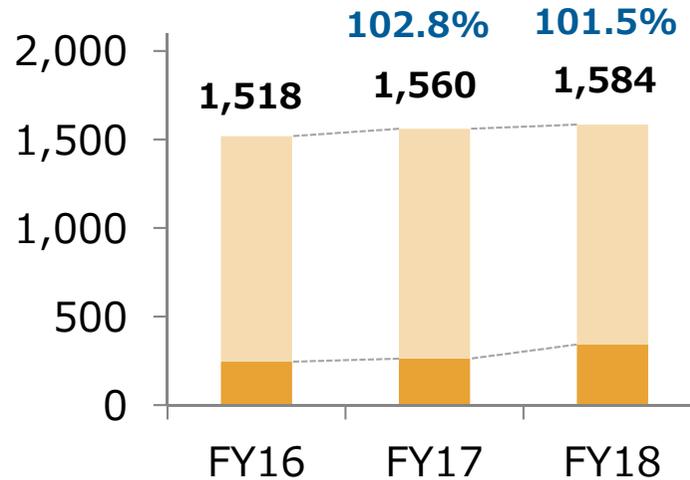
■：メカトロ ■：サプライ ※数字は売上計、%は前年比

ヘルスケア



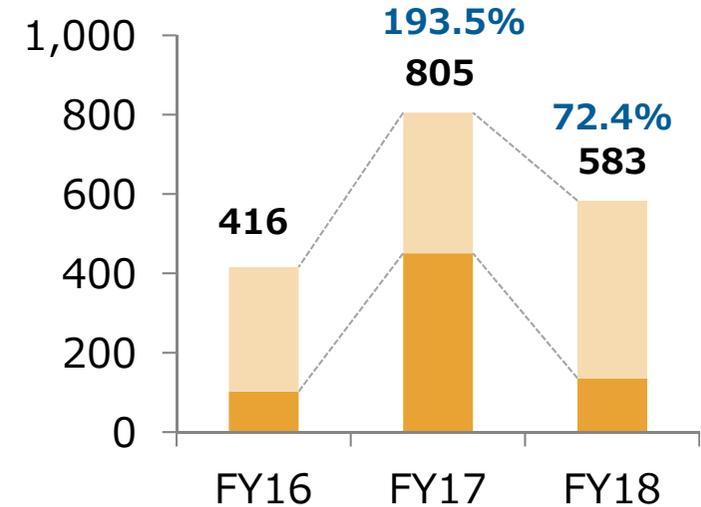
- 医療用機器へのUDI*ガイドライン対応や人手不足など外部環境は良好
- 純正ラベルへの切替活動などが奏功。位置測位ソリューションの販売も後押し

食品



- 食品表示法改正などへの対応や人手不足など、外部環境は良好
- 法令対応セミナーなど顧客接点の多様化施策や、戦略モデルプリンタ販売が寄与

公共



- 外部環境に大きな変化はなし
- 前年同期の大口プリンタ販売剥落も、同社の配送物取扱量増でラベル好調

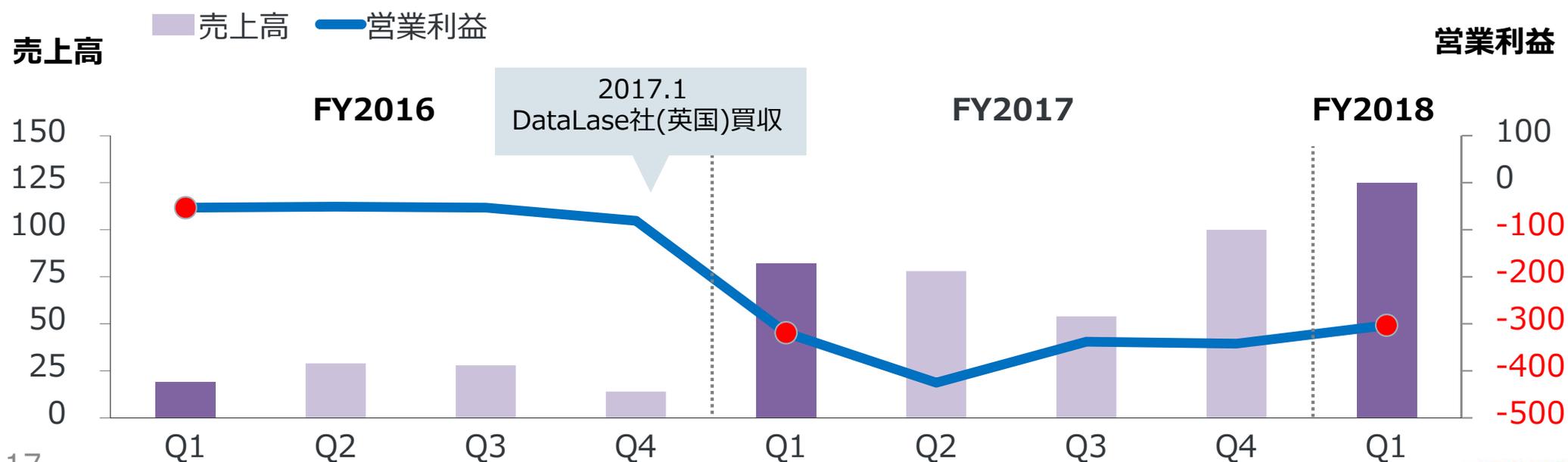
*Unique Device Identification：主にバーコードで医療機器などを固有に識別・管理すること

IDP事業

DataLase社（FY2017より連結）がほぼ計画通りに研究開発を推進

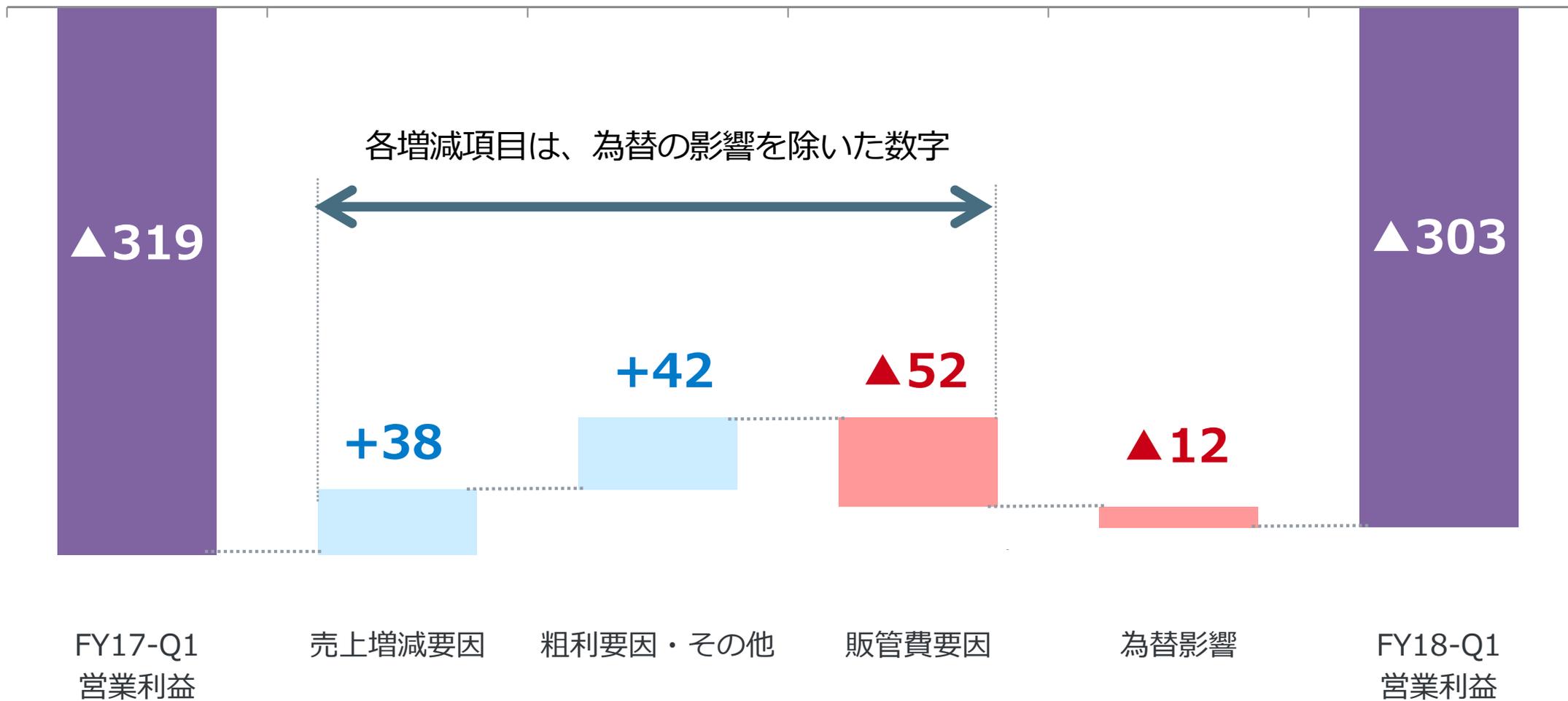
（単位：百万円）

	FY2018 Q1	FY2017 Q1	増減	増減	
				%	除く為替
売上高	125	82	+43	153.2%	147.3%
粗利額	143	58	+85	246.4%	--
粗利率（外売）	114.4%	71.1%	+43.3pt	--	--
営業利益	▲303	▲319	+16	--	--
営業利益率	--	--	--	--	--



IDP事業 営業利益前年との比較

(単位：百万円)



2018年度連結業績計画

(単位：百万円)

	上期		下期		通期	
	計画	前年比	計画	前年比	計画	前年比
	売上高	58,000	105.8%	62,000	105.9%	120,000
営業利益	2,800	109.5%	4,500	121.8%	7,300	116.8%
経常利益	2,700	113.9%	4,400	125.0%	7,100	120.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,500	62.2%	2,600	156.5%	4,100	100.6%

<参考>

EBITDA ※	11,814	←2017年度通期	13,000	110.0%
-----------------	--------	-----------	--------	--------

※ EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + のれん償却費

FY18 想定レート : 110円/USD, 130円/EUR
 FY18 Q1為替レート (期中平均) : 109.09円/USD, 130.03円/EUR
 FY17 通期為替レート (期中平均) : 110.85円/USD, 129.65円/EUR

Appendix

用語集

P21~P24

用語集 (1/4)

サトー独自のコンセプト/取組		説明
1	自動認識ソリューション事業	DCS & Labeling+Oneを展開。具体的には、お客さまの現場課題に基づいて自社で開発・製造したバーコードプリンタやラベル、自社で設計したソフトウェアやサービス、外部パートナー仕入れ商品などを組み合わせて提供。現場で人やモノに可変情報をタギングして情物一致を実現。 本事業は海外と日本に区分され、海外はベース事業とプライマリー専業から構成。
2	自動認識ソリューション事業 海外：ベース事業 プライマリー専業	自動認識ソリューション事業の海外は、「ベース事業」（現場で可変情報をタギングするビジネス）と、「プライマリー専業」（飲料や日用品などの商品のラベル：固定情報を扱うビジネス）に分けて管理。 プライマリー専業はAchernar（アルゼンチン）、Prakolar（ブラジル）、Okil（ロシア）、X-Pack（ロシア）から構成。
3	IDP事業	「IDP」などに使用する特殊な素材の開発・製造・販売。2017年度より「素材事業」として新設したが、2018年度からはIDP技術の活用により注力することを目的に「IDP事業」に改称。
4	タギング	人やモノにIDなどの情報を紐付ける物理的な作業。個々に異なるお客さまの現場で、多様なモノに情報を紐付けるには、豊富な「現場力」に裏付けられた自動認識ソリューションの実践的ノウハウが求められる。
5	DCS & Labeling+One (DCS: Data Collection Systems)	バーコードやRFIDなどの自動認識技術とバーコードプリンタやラベルなどの商品・サービスを活用して、さまざまな現場にある「人」や「モノ」の情報（=Data）を的確かつ効率的に収集（=Collection）する仕組み（=Systems）と、情報を最適な形で紐付けるタギング（含むLabeling）を提供するサトーのビジネスモデル。 お客さまニーズの高度化を受けて、オープンなイノベーションやパートナーシップを活用し、本ビジネスモデルに音声認識や位置測位技術などの「+One」を組み合わせる顧客価値をさらに向上させる取り組みを推進中。
6	情物一致	現物と情報を一致させること。商品に価格という情報をタギングする「ハンドラベラー」の時代から、情物一致はサトーの事業コンセプトである。
7	現場力	自らお客さまの現場へ行き、運用を理解し、解決すべき課題の本質を捉えて最適な解決策を提供する力。

用語集 (2/4)

サトー独自のコンセプト/取組 (続き)		説明
8	三行提報	社員が現場でキャッチした、会社を良くするための情報やアイデアを三行（約127文字）にまとめて、毎日経営トップに直接提出するサトー独自の仕組み。経営トップはいち早く社内外の環境変化を把握し、迅速な意思決定や必要な施策を講じることができることに加え、社員が経営者と同じ目線で物事を考える「全員参画の経営」を実現。また役職や勤続年数に関係なく全社員が提言できることから、不正や不適切な行為などを防ぐモニタリングとしての役割も担っており、コーポレート・ガバナンスの面においても効果を発揮。1976年から始まり、近年は海外拠点の導入も増えている。
商品・サービス名・技術		説明
1	メカトロ商品	バーコードプリンタやラベル自動貼付機器、スキャナ、ハンドラベラーなどのハードウェア、ソフトウェア、保守サービスなどサプライ商品以外のすべて。粗利率はサプライ商品よりも高い。プリンタの製造はマレーシア、ベトナム及び台湾で行っている。
2	サプライ商品	ラベル、タグ、プライマリーラベル（商品シール）、リボンなどの消耗品。粗利率はメカトロ商品よりも低い、リピートビジネスのため販売管理費は小さい。進出国の多くに製造拠点がある。
3	自動認識ソリューション	自動認識技術を用いて情物一致を実現するための商品・サービスの提供。具体的にはバーコードプリンタ、ラベル、ソフトウェア、保守サービスなどの組み合わせ。加えて、近年は複雑化・多様化する顧客ニーズに応えるために自前主義に拘らず、オープン・パートナーシップを促進することにより情物一致を実現する。例えば自動認識技術と位置測位技術を掛け合わせて人・モノのタグの位置情報を取得し、作業員や在庫の動きをリアルタイム捕捉することで工数・作業時間の見える化や製造工程進捗管理を実現するなど。
4	CLNXシリーズ	2014年（日本は2015年）発売のグローバルモデルプリンタ。「現場を止めない」をコンセプトに高い堅牢性、誰もが簡単に使えるユニバーサル性、業界初のIoTを用いた保守サービス「SOS（SATO Online Services）」を備える。
5	SOS (SATO Online Services)	お客さまのプリンタをクラウドにつなぎ、モニタリングやメンテナンスを行うサービス。これにより予防保守やエラー時の早期復旧が可能となる。またお客さまは導入したプリンタの稼働・活用状況を一覧で可視化することができ、資産管理が容易となる。 一方サトーにとっては、予防保守の実現による保守人員の労働生産性向上や、保守人員が少ない海外におけるサポート向上が期待できる。

用語集 (3/4)

商品・サービス名・技術 (続き)		説明
6	AEP (Application Enabled Printing)	プリンタにラベル発行プログラムをインストールすることにより、PCレスで発行を実現。プリンタ単体での上位システムとの連携が可能。
7	API (Application Programming Interface)	異なるアプリケーションが相互に情報をやり取りして連携するための仕組み。APIを通じて他のアプリケーションと連携することで、色々な機能を簡単に作ることが可能となる。
8	可変情報ラベル	バーコードや商品の価格、製造年月日や消費期限などの情報を、お客さまの現場で必要に応じて変化させて印字する用途のラベル。プリンタで必要な時に必要な分だけ発行できる点が、印刷機で一度に大量の固定情報を印刷するプライマリーラベル（商品シール）との大きな相違点。
9	RFID (Radio Frequency Identification)	自動認識技術の一つ。電波を利用して非接触でデータの読み書きを行い、①複数一括読み取りができる、②非接触で読み取りができる、③遮蔽物があっても汚損していてもデータの読み取りができる、④情報の書き換えができる、といったバーコードには無い特性を持つ。これにより、業務効率の飛躍的な向上が実現できる。
10	VISION Retail Platform	IoTやRFIDを用いてこれまでにない顧客体験を提供するリテール向けデジタルソリューション。2014年にハードウェアとサプライの開発・製造・保守までを手掛ける独自の自動認識ソリューションインテグレート事業をグローバルに推進することを目的に設立したSGS (SATO Global Solutions Inc.) (米国) が開発。
11	IDP (Inline Digital Printing)	特殊な感熱顔料を含む塗料をさまざまな素材に塗布し、レーザー照射により発色させることでダイレクトに印字ができる革新的な印刷技術。印字に要するインクやラベルが不要なため、貼り作業や在庫管理業務、廃棄物を削減するとともに機器のメンテナンス作業負担を軽減。コストダウンと生産性向上、環境負荷低減を実現。また可変情報を製造工程の最終段階で印字できることから、消費者一人ひとりに向けたパーソナライズされた情報を伝達することも可能なため、マーケティング用途にも適用可能。マーケティング用途に不可欠なマルチカラー技術は2021年度の商業化を目指してXeroxグループなどと開発中。

用語集 (4/4)

2012年以降買収した主な会社		説明
1	Argox Information Co., Ltd. (台湾)	2012年に買収したエントリーモデルのプリンタの開発・製造・販売子会社。
2	Achernar S.A. (アルゼンチン)	2012年に買収したプライマリー専門子会社。
3	Magellan Technology Pty Ltd. (オーストラリア)	大量のRFIDタグを高速かつ正確に読み取ることができ、金属や液体の影響、および積層状態での重ね読みに強いなどの独自性の高いRFID技術「PJM(Phase Jitter Modulation)」を含む同社の事業の譲渡を2013年に受け、SATO Vicinity Pty Ltd.を設立。
4	Okil-Holding, JSC (ロシア)	2014年に買収したプライマリー専門子会社。取得株式75%。
5	Prakolar Rótulos Autoadesivos LTDA. (ブラジル)	2015年に買収したプライマリー専門子会社。
6	DataLase Ltd. (英国)	2017年に完全子会社化したインライン・デジタル・プリンティング事業を推進する開発・製造・販売子会社。



【本資料ご利用にあたっての注意事項】

- ・本資料に記載の内容は全て2018年 8月現在の情報をもとに作成したものです。
- ・本資料に記載の内容は予告なく変更することがあります。
- ・本資料で使用される商標、ロゴ、商号に関する権利は、弊社またはそれぞれの権利の所有者に帰属します。
- ・本資料の内容に関する一切の権利につきましては弊社に帰属し、本資料の全部または一部を弊社の文書による事前の承諾なしに転載または複製することを固くお断り致します。